令和２年度

佐那河内中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

小中学校９年間を見通した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
大島　浩代 （研修主任・１学年主任・理科主任）	校長；後藤田　育秀　　教頭；倉橋　誠一 教務主任・3学年主任；橋本　滋　2学年主任；大草　康夫 国語主任；久米　智宏　　数学主任；堀岡　暁美

校長
後藤田　育秀　印

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み，学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職，小中教員による授業参観や報告，小中合同研修会等，様々な機会を捉え，取り組み状況の把握を行う。

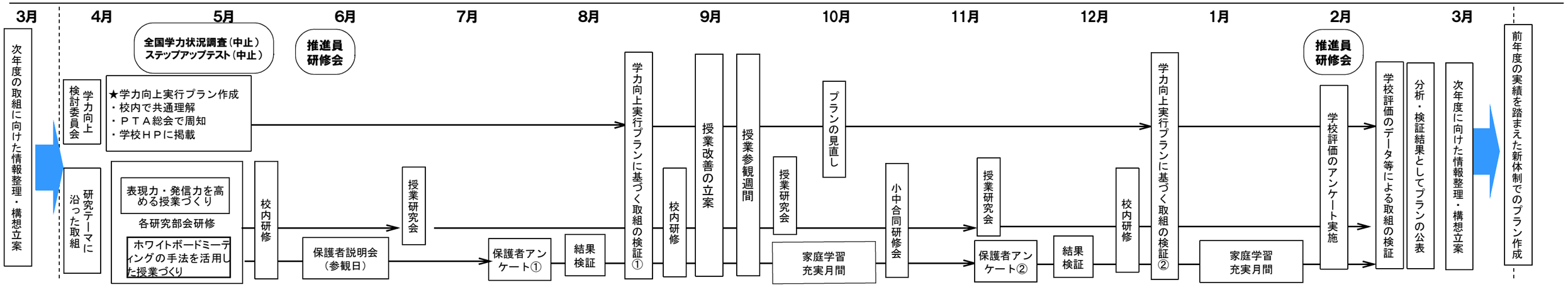
（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○　まじめに授業に取り組むことができる生徒が多い。国語科において「言語活動」についての知識の定着が見られる。基本的な読み書き，計算の力が定着している。 ●　学力の個人差が大きい。また，単語や漢字などの基本的事項を反復学習することが苦手な生徒が見られる。	・毎日，自主学習ノートを利用して，漢字・計算・英単語等を反復練習し，知識・技能を身につけることができる。 ・読書を通して，言語活動の基礎となる文章表現を学び，日常生活の中で活用ができる。	・授業中，漢字や計算の反復練習をさせ，学習方法を知らせ，家庭学習で取り組めるように指導する。 ・単元ごとのパテストやセミナーテストを定期的に行い，基礎的・基本的知識の定着を図る。 ・読書記録をつけさせ，読書数の少ない生徒に声をかける。また，機会を捉えて本の紹介をする。 ・「めあて」「振り返り」を位置づける授業を行い，わかりやすい授業を行う。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○　与えられた課題に意欲的に取り組み，より良い結果を求めて工夫し表現できる。 ●　文章を読み取る力，記述式の問題に対して，自分の考えをまとめ，文章で表現する力をつけるのが課題である。	・課題解決に向けて，様々なものの見方や考え方を理解し，情報収集，整理，分析をすることができる。 ・根拠や理由を明確にしながら，自分の思いや意見をわかりやすく伝えることができる。 ・スカイプ，ビデオレターなどを通して，海外の人たちに日本の文化や学校生活について自分の考えを伝えることができる。	・タブレット，ホワイトボード等の教育機器を使い，スピーチや討議など，ペアやグループなど様々な形式で発表させる。 ・記述式の問題を解くポイントを教え，順序だてて考える練習をさせる。また，授業中，生徒が発言する機会を多く設定する。 ・ブラジルやアメリカとの交流に加え，フィンランドの生徒たちとの交流経験を増やし，ステップアップできるように教師が支援する。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○　自主学習ノートを継続することができ，課題も確実に提出できる生徒が増えてきた。また，ペア学習や班活動でリーダーシップのとれる生徒が育ってきた。 ●　わからない問題に対して，粘り強く取り組む姿勢が不足している。また，テスト前における家庭学習時間には減少の傾向が見られる。	・自分が決めた目標に向けて，学習することができる。 ・学習に主体的に取り組み，自らの疑問を積極的に解決していくことができる。 ・授業で学んだことを振り返り，自らの課題を見つけ，自分にあった学習方法を見いだすことができる，	・英検，漢検の受検率80%を目指す。 ・定期テスト前に学習計画表を作成させ，目標設定して達成できるように支援する。 ・定期的に教師による質問教室を開き，生徒の疑問を解消させる。 ・学びの過程を振り返りできるノート（エラーズノート等）の指導をし，自ら，復習できるように支援する。			

令和２年度　学力向上ロードマップ